



まちづくり団体の取り組み

～こんなことやってます～

まちづくりは自分たちの手で ほこた塾（銚田町）

1. みんなの声がひびくまちづくり

銚田町は、茨城県東南部の人口29,000人の町で、メロン・イチゴの栽培が盛んで農業粗生産額も県第一位です。また北浦ではフィッシングが盛んに行われ、大竹海岸銚田海水浴場には県外からも多くの観光客が訪れており、松林を背景に砂浜・海が広がり自然豊かな海岸が好評を得ています。

現在の複雑多岐にわたる社会構造の変革により、将来のまちづくりを推進するためには、行政主導のまちづくりでは限界ではないかと考え、銚田町では将来を展望したまちづくりを思慮した上で、地域での諸問題や課題の解決に向けて、行政と住民がその役割を明確にし、地域住民が解決可能な問題については、住民が行ない、行政でなければ解決困難な諸問題については、行政が住民の意見を聞いて解決を図るといった住民と行政による協働の理念でまちづくりを進めています。

その第1段階として、地域のリーダー的人材を育成するため、12学区（銚田町全域）から選出された受講生と、一般公募による受講生により「ほこた塾」を開講しています。平成11年度に第1期を開講、現在第2期を開講中です。



熱心に聴講する塾生、講義にも熱がこもる－銚田町役場会議室にて

2. ほこた塾でひとづくり

ほこた塾は全塾生を班編成し、会場の準備から後片付けまで塾生が実施しています。

講義内容は、一般教養講座、町民基礎教養講座、地域興し専門講座に分け、全講座20単位とし、月2回、夜7時から9時に開講しています。講師には大学教授や民間有識者、地元起業家等を迎えています。また町職員も講師として身近な行政のしくみを講義することもあり、職員にとってそのことが日頃行っている業務について見直す良い機会になるとともに、率直な意見交換を通し、行政と住民の相互理解の場ともなっています。

また講師による一方的な講義に終始することを避け、講義終了後、班別に分かれ、その日のテーマについて、講師も交えて、自由に意見交換や議論を行っています。講義も大切ですが、ディスカッションをする



ことによりテーマに対する認識が深まり、毎回熱のこもった議論が繰り広げられています。

現在の第2期では、「これからの地域づくりと考え方」のように地域全体を考えるものから「福祉・年金、保険制度」のように住民個人に関するものまで幅広い分野からテーマを取り上げています。

3. 住民による、住民のためのまちづくりへ

まちづくりの講座は、行政主導で行われる場合が多いのですが、ほこた塾は、12学区コミュニティの統合組織であり、住民の代表機関ともいえる「まちづくり推進会議」から発案され、塾の運営委員も住民自身があたっている、住民主導の講座です。

塾生も男性30人、女性20人、参加年代も20代から60代までと幅広く職業も多岐に渡っています。

班別討議においては、誰もが意見、感想等を述べることになっていて、各人誰もが「人前で述べる」ことにたいへん自信をつけてきています。その結果、ほかの会議の席上でも、積極的に発言をすることが多くなっています。

毎回の活動結果は、銚田町の広報誌「広報 ほこた」にスペースをとって、運営委員が持ち回りで記事を発表しています。それにより「ほこた塾」に対する関心が高まるとともに、参加希望者が増えてきています。



議論し合うことで、他人事ではなく自分の問題としてまちづくりを考えて行く

人材育成（地域のリーダー養成）というソフトな事業の性格上、目に見えてすぐに成果がでるものではありませんが、第1期の卒塾生が、第2期の運営に積極的に携わったり、「まちづくり推進会議」のリーダー的存在として活躍したり、自主的な勉強会を始めたりと、ほこた塾を拠点に、着実にまちづくりが始動しています。

現在第3期のほこた塾の開講準備をしており、また、卒塾生達を対象にしたフォローアップ研修も企画しているなど新たな展開も目指しており、今後の更なる活躍が期待されます。

（問い合わせ先：銚田町企画課

0291-33-2111 内 222）

